

国 語

第5学年国語科学習指導案

平成23年〇月〇〇日(〇)第〇校時
 〇〇小学校 第5学年 計〇〇名
 指導教員 〇〇 〇〇
 授業者 〇〇 〇〇

単元名
 本単元のねらいを明確に示す。単元名は、学校の指導計画に合わせて設定するとよい。

1 単元名 「人物の考え方や生き方をとらえよう」 (教材名 「わらぐつの中の神様」)

2 単元の指導目標

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、登場人物の考え方・生き方について自分の考えをもてるようにするとともに、優れた叙述を味わい、効果的な読み方を工夫し、読書をとおして考え方を広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

指導目標
 学習指導要領の目標、内容に基づいて設定する。

3 単元の評価規準

観点	ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	・物語の温かさにひかれて、心に残る言葉や文章、情景や場面等から優れた叙述を味わい効果的な読み方を工夫しようとしている。	・登場人物の心情や性格、考え方などを多面的にとらえ、情景などの表現に着目して読んでいる。 ・現在一過去一現在という物語の構成とその効果的な表現等について理解している。	・当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・理解するための語句について辞書を利用して調べている。
規 準 学習活動に即した具体的な評価	①心に残る言葉や文章、情景や場面を楽しんで読んでいる。 ②友達と感想について話し合うことなどをおし、感じ方や考えの違いに気付いて、自分の読みを見つめ直そうとしている。	①叙述に基づいて、おみつさんと大工さん等の登場人物の相互関係をとらえ、それに基づいて心情や性格、考え方等、多面的に捉えようとしている。 ②情景や場面の様子を叙述に基づいて読み味わっている。 ③マサエの気持ちの変容を読み取り、現在一過去一現在という物語の構成の効果を理解している。	①当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ②重要語句を調べるために辞書を使って調べる習慣が身に付いている。 ③語感、言葉の使い方に対する感覚について関心をもっている。 ④文章にはいろいろな構成があることについて理解している。

評価規準
 単元の目標を踏まえ、観点ごとの評価規準を設定する。
 国語では、ア「国語への関心・意欲・態度」イ「話す・聞く能力」ウ「書く能力」エ「読む能力」オ「言語についての知識・理解・技能」の5観点から、単元の内容によって、評価の観点を設定する。
 本単元では、「読む能力」の育成を目指し、評価規準を設定している。

4 指導観

(1) 単元について

この単元では登場人物の考え方や生き方を捉えることをねらいとする。物語の中の登場人物の言葉や行動、描かれている情景からそれらを読み取ることがこの単元で学習することである。

この物語のキーワードともいえる「心をこめて作ったものには神様が入っている」という一文は、経済的なことに目を向けがちな現代社会を生きる私たちにとって、大切にしていきたい精神的な尊さを教えてくれるものである。また、登場人物の純粋な気持ちや正直な心も、人間社会において普遍的な価値をもつものである。登場人物の生き方や考え方について読み深めることで、本当に大切なことは何かを考えさせたい。また、物語をとおして使われている方言が、作品のもつ温かい雰囲気を感じさせていることにも気付かせ、方言のもつよさについても感じさせていきたい。

単元について
 本単元における学習指導要領上の位置付けや指導のねらいを示す。単元や教材がもつ教育的意義や児童に身に付けさせたい言語能力を明らかにし、具体的に記述する。

(2) 児童の実態について

これまでに学習した物語を読む活動では、叙述を基に場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、読み取ったことを理由を挙げながら伝え合うことができている。また、人物や情景の描写など表現の細かい点にも注意しながら読み進める児童もおり、それぞれの考えを深めてきた。

また、この時期の児童は様々な物語を読む機会も多くなり、物語のもつよさを感じ取ろうとしたり、すすんで物語に親しもうとしたりする態度が育ってきている。一方で、物語を表面的に読むだけで済ませる傾向があり、作品が本当に伝えたい内容を読み取ることにはまだ課題が見られる。本単元では、登場人物の言動や情景に注目させ、そこに表される人物の考え方や生き方、人柄について読み取らせていきたい。また、方言に触れる機会が少ない児童が多いので、この作品をとおして言葉の響きやそのよさについて感じさせたい。

児童の実態について
 現段階での児童に定着している言語能力の状況や児童の興味・関心等の実態を十分に把握する。また、当該学年だけでなく、小学校1年生から中学校3年生までを見通し、育成したい観点を明確に示す。

国語科の指導計画作成上の配慮事項

指導計画の作成に当たっては、児童に身に付けさせたい言語能力を明確にし、学習指導要領の内容をどのように取り上げるかを明確にする。学校や学年あるいは学級の児童の言語能力や言語体験の違いなどに応じて、学習のねらいや児童の興味や関心を考えながら計画を立てる必要がある。その際、学習指導要領に示されている各学年の内容に基づきながらも、その前の学年において初歩的な形で取り上げたり、後の学年において程度を高めて取り上げたりして指導することも考えられる。また、児童の言語能力がらせん的に高まるよう、それぞれの学年の学習指導を孤立させず、児童の発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら柔軟でしかも弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てていくことが大切である。

国語科における道徳教育の指導については、国語による表現力と理解力を育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることが、思考力や想像力及び言語感覚を養うことにつながり、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本となる。

(3) 教材について

この物語は、現在→過去→現在という構成になっている。おばあちゃんが孫のマサエにおみつさんと大工さんの話を聞かせ、話の中の心の触れ合いをとおしてマサエの心が変わっていく話である。なぜ考え方が変わっていったのかを、おみつさんと大工さんの考え方や生き方をつかむことをとおして学ぶことができる。そこで登場人物の言葉や情景を読み進める活動をとおして、それぞれの人物の考え方や生き方を読み取ることができるようにしたい。

そこで、文章内容や構成を読み取っていく学習活動では、まず気持ちや情景が読み取れる文や言葉にサイドラインを引き、その後、サイドラインを引いた部分から想像したことを書き込んでいく活動を設定する。

「わらぐつの中の神様」は、わらぐつをとおして描かれた心の通い合いに寄り添いながら、心の温かさや思いやりの深さを読み味わうことができる。物の豊かさがあふれている時代だからこそ、おみつさんと大工さんの考え方や生き方から、人として忘れてはならない大切なものについて考えさせたい。

教材について

教材としての特徴から指導のポイントとなることを明らかにする。また、授業で扱う資料や、各種教材・教具、地域の人材、学習環境等をどのように活用するかを示す。

5 指導計画 (8時間扱い)

次	時	ねらい	学習活動	評価(評価方法)
第1次	1・2	・物語を読んで感想を持ち、友達と交流する。	・第一場面を読み、わらぐつに対するおばあちゃんとマサエの見方の違いを読み取る。 ・第二場面、第三場面を読み、読んだ感想をまとめ、話し合う。	ア－①(観察) イ－①(観察) ウ－①(音読) イー②(ノート)
	3・4	・おみつさんの言葉や行動を基に、おみつさんのわらぐつに対する思いや人柄を読み取る。	・おみつさんの雪げたが欲しくてたまらない心の高まりを読み取る。 ・わらぐつを作る様子や作り上げたおみつさんの気持ちについて話し合う。	ア－②(観察) イ－②(ノート) ウ－② (発言・観察)
第2次	5(本時)	・大工さんの言葉や行動を基に、二人の心が通い合う様子を読み取る。	・大工さんの言葉や行動が分かるところから、人柄について読み取る。 ・二人の互いの思いが分かることを基に、それぞれの気持ちをを読み取る。	イー③ (ノート・発言) ウ－② (発言・観察)
	6・7	・おばあちゃんの話聞き終わったマサエの様子を基に、マサエの心の変化について読み取る。	・おばあちゃんの話聞いてマサエの心がどう変わったかを読み取る。 ・この物語の構成について、考え話し合う。	ア－②(観察) イー④ (発言・観察)
第3次	8	・方言と共通語の特徴について気付く。	・各地方のことばがどのように使われているか考える。 ・語感やことばのもつ響きやよさについて話し合う。	ウ－② (発言・観察) ウ－③ (ノート・発言)

指導計画

児童が見通しをもって学習を進めることができるように、指導計画を作成する。

本単元では、8時間の単元全体を大きく、三つのまとまり「次」に分け、それぞれを

「第1次」

児童に学習内容や作品について興味・関心を高めるための動機付けとなる活動

「第2次」

教材文を読み、言葉を手掛かりに場面の情景や登場人物の人柄について読み進め、読みを深める活動

「第3次」

本文で使われていた方言の学習から、方言と共通語のそれぞれの特徴についてまとめる活動

をとおして指導目標を達成するように計画する。

国語科における「言語活動の充実」について

「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することができる国語の能力を身に付けることができるよう、日常生活に必要とされる記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動がある。学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要である。

「読むこと」の指導について

- 「読むこと」の指導では、児童の学習意欲を高め、日常生活においても読書活動を活発に行うよう促し、児童の読書力を向上させることが重要である。また、国語科における読書の指導は、常に国語科以外の学校の教育活動全体における読書指導との密接な連携を図っていく必要がある。
- 読書の指導では、(1)読み手としての主体性を育てること (2)目的をもち意欲的に読書をする態度を育てること (3)読書をする喜びが分かり進んで読もうとする態度を育てること などをとおして読書意欲を高めることを重視する。

6 本時の指導 (全8時間中の第5時間目)

(1) ねらい

わらぐつに対する大工さんの言葉や行動などの様子から、大工さんとおみつさんの心が通い合う様子を読み取る。

(2) 本時の展開

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準 (評価方法)
導入	1 前時の学習を思い出す。 2 本時のめあてをもつ。 おみつさんと大工さんの心が通い合う様子を読み取りましょう。	・前時まで学習したことを振り返り、本時のめあてを示し、児童の興味・関心を高める。
展開	3 本時の学習場面を音読する。 4 大工さんの気持ちが分かるところを探して、サイドラインを引き、方言にも触れながら大工さんの気持ちや人柄を想像する。 ○ 大工さんの人柄について発表し合う。 ・「仕事場の仲間や、近所の分も買ったんだよ。」(心がやさしい) ・「おれは、わらぐつをこさえたことはないけども〜ほんとのいい仕事ってなんだ。」(ものの値打ちが分かっている) ・「いい大工になりたい」(ゆめや目標がある) 5 二人の互いへの思いが分かるところを探して、大工さんとおみつさんの気持ちを読み取る。 ○ 大工さんのおみつさんへの思いが分かるところ、おみつさんの大工さんへの思いが分かるところにサイドラインを引く。 ○ 二人の気持ちについて話し合う。 大工さん ・ちよつと赤く ・顔を見つめながら ・うちへ来てくれないか おみつさん ・顔を見るのが楽しみに ・たのしい ・えらい人のような気がして ・夕焼けのように赤く	・読みが苦手な児童には、熟語等のヒントカードを用意する。 【評価規準 ウー②】 ・本文の言葉から方言の意味や果たす効果、役割について理解している。(発表している児童の様子を観察) ・方言の果たす効果や役割について考えさせる。 ・叙述から大工さんの人柄を想像させる。 ・大工さんの気持ちを表している文と、おみつさんの気持ちを表している文を区別してサイドラインを引くようにする。 【評価規準 イー③】 ・おみつさんと大工さんの関係について叙述に即して読み取っている。(ノートの記述内容や発言している児童の様子を観察) ・言葉や行動から人柄や考え方、心情について想像させる。 ・二人の気持ちが一致していることをおさえる。
まとめ	6 大工さんやおみつさんの気持ちが分かるように音読する。 7 次時の予告を聞く。	・最初に読んだときとの読み方の違いを考え、工夫して音読するように指示する。

ねらい

本時の学習をとおして身に付けさせたい言語能力を端的に示す。

本時の展開

<導入>

前時までの学習を思い起こし本時の学習のめあてをつかませるとともに、学習への意欲を高めさせるようにする。

<展開>

児童が本時の学習で読む場面を示し、学習活動を示す。

○「学習活動・内容」

児童の実態に応じた内容や方法を工夫する。

情景を想像することで、作品をより深く味わい、読みを確かなものにするを意図している。言葉への気付きを大切に、文脈における言葉の意味を読み取り、語感の味わいを基に表現の役割や価値観をとらえさせることが大切である。

一人一人の読みを確立するために、自分の思いがどのような叙述に基づいているかを意識させ、友達との意見の交流をとおして、自分の考えを見つめ直させる学習活動を設定する。

○「指導上の留意事項」

一人一人の読みの課題を把握し、指導や助言等の手だてを明確にする。

○「評価規準」

評価計画に基づき、評価場面と方法を具体的に示す。

<まとめ>

最初の読みとの違いから、学習の成果を児童に知らせ、次時への興味・関心を高める。

(3) 板書計画

わらぐつの中の神様

めあて
おみつさんと大工さんの心が通い合う様子を読み取ろう

○ 大工さんの人から

- ・「仕事場の仲間や、近所の人の分も買って買ったんだよ。」
(心がやさしい)
- ・「おれは、わらぐつをこさえたことはないけども、ほんとのいい仕事ってなんだ。」
(もののね打ちが分かっている)
- ・「いい大工になりたい。」
(ゆめや目標がある)

大工さんのおみつさんへの思い

おみつさんの大工さんへの思い

- ・大工さん
ちよつと赤く
顔を見つめながら
うちへ来てくれないか
- ・おみつさん
顔を見るのが楽しみに
たのしい
えらい人のような気がして
夕焼けのように赤く